

寺山修司の詩を読むと

森本眞智子

寺山修司の詩を読むと

私は 抛り所をなくしてしまう

私を迎えに来てくれた車が

素通りして 行ってしまったような

満ちていたものが

抜け落ちてゆくような

形のないものをつかもうとしているような

深い霧の中から

抜け出せないでいるような

ひどく むなしい気分になるのだ

もうわたしの ガラスの靴は

こわれてしまったのだろうか